

「澤井河川塾」近畿通信 Vol. 39
(NPO法人 近畿水の塾)

////////////////////////////////////
2/22「自然再生法連続シンポジウム」開催
////////////////////////////////////

【前回河川塾の内容】

澤井河川塾 (2003年12月17日) 報告

桂川流域見聞の報告

経過

- ・2002年世界水フォーラムの一環として市民ネットワークが立ち上がる。
- ・その後、公開講座や京北町でのワークショップ(上下流エクスカッション)が行われた。過密スケジュールだったためいささか消化不良気味であったが、上流域の市民には望まれていると感じられた。
- ・市民ネットワーク解散後もこの流れを存続するために、「流域見聞」が始まった。

桂川流域見聞 第1回目

- ・去年の続きと言う位置付けで、前年度の名簿を元に実行委員への参加の打診を送る。
- ・結果、35人集まる。同じ上流域でも違う場所ですということもあり京北の人の参加が減った。
- ・その後、水辺環境ネットワーク事業(京都府の受託事業)となる。
 - ・桂川は大体尾根筋を通るから府の境界と流域界が似ている事もあり三河川合わせてしようという傾向にある。
 - ・交友交流の場面において、コミュニケーションの為のデザインを出来ないか？デザインの介在が出来ないか？

黒田村に選んだ理由

- ・繋がりがあったために声をかけやすかった。
- ・京都造形大学の研修施設があった。

ココから黒田のビデオ上映始まる

内容（キーワード）

黒田の集会場・自然・伐採跡地と里山・農業用水・水路・堰かけひ跡・イトヤ（かつては水路を屋敷に引き込んでいたところもある）・（石があって草があって雑魚がいて生活排水もすぐに綺麗になる）・ゴリ捕り・（朝廷への謙讓鮎の産地）・黒田発電所・いかだ流し（仮説ダムを一気に放流する事を繰り返し四日ぐらいかけて嵐山へ）・山田神社

ビデオ上映その2

内容（キーワード）

祭り・準備風景・アゲマツ（ヒノキ）・（廃小学校は機材・資料の宝庫）

ビデオ上映終了

黒田村の概要

現在、水路の利水の割合は発電と農業用で五分五分。
水利組合が分かれていないから水争いは少なかった。

もともと林業の村

一般の家に中世の古文書がある珍しいところ。いまだに個人の家で保管されている。（博物館に一つにまとめて保管するという話もある。）

アシュウスギ（高価？）の産地であり、昔は秘密保持の為、集落外との結婚は認められなかった。

冬の農業の出来ない時は水を使わないので、いかだ流しをした。

戦後、林業も産業化しドーピングのようにどんどん植林し自然バランスを崩している。

中世の古文書より

村の境界争いの跡：昔は黒田の地図に白地の部分があった（かたなみ集落：黒田の人々とは違う生活をしていた）。

ほとんど変わっていないので、今でも古文書の地図で何処が誰の家かわかる。

植生も書き分けている（ビジターには同じ景色でもインナーには一つ一つの場所に違う意味がある）。

交流会のあり方

キーマン同士の交流になりがちだが地元の人が話をしてくれて、皆がそれを共有できるのが本当の姿である。

交流会の感想（ビジター）

地元の人達は「喋る事がない」「何を喋ればいいのか」と初めは言っていたが、「いかだの事でいい」と言うと「いかだなら言える」とのあっさりとした受け答え。ビジターには大きなことをあまりそうは感じていない。

個人が樹名札を林につけていっている「なんでそこまで出来るのか」(感嘆)。

受付が丁寧・片道二時間の工程を大型バスで無料送迎に関心。受託金の使い方について考えさせられる。

それぞれの所で相応しい人に案内が代わる。地元人皆が理解しあえている空クジ無しの抽選会（黒田の人が作った農産物が生産者ラベル付きでもらえる）。

上下流連携は下流の人間が勝手すると混濁になるのではないかと。

上流の善意に甘えすぎている。

時間はスピードにしか価値がないのかと考えさせられる

いかだの話をしてくれた人（七十七、八才？）は聞き取りの出来る最後の人。伝統系の人には今のうちに話を聞いとかなないといけない。

いかだ流しについて

一つの流域でもエリアにより担当が色々ある。

ダムが出来るのもう物理的に出来ない。

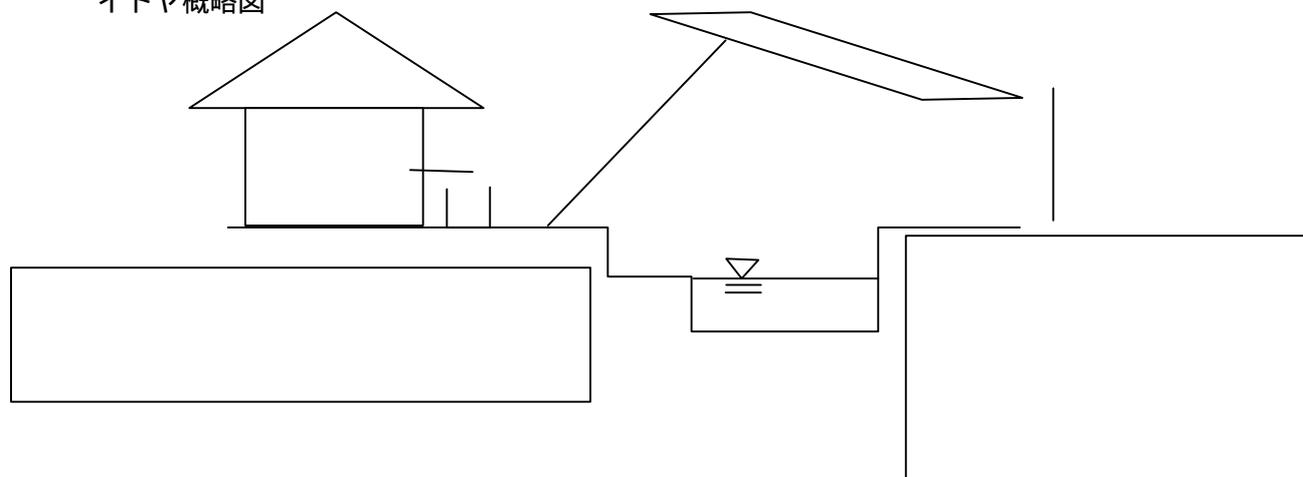
北山川沿いのいかだ流しは規模が大きく記録も残っている（一般の文庫本）。

三年前にシュウ山でいかだの復元がされたが続かなかった。

イトヤについて

一番小さい子が始めて出会える水辺。

イトヤ概略図



里山について

京都のまきを支えていた？ 現地でそういう話は出なかったのでそういうことはなかったのではないか。日吉町はそういうことをしていた。

気候について

気温は低い？ 冬は雪が積もる。もみの木も生えている。

人・文化・伝統について

録音やテキストで資料を残しても、場所と結びつけた情報化をしないと中々伝わらない。

ビデオは有効か？

NPO もイベント系に走りすぎの感がある。もっと生きている人にその状況を提供して貰う事が大事（死んでしまったらフィクションだ）。

昔の文化の記録を残すのは、都会も田舎も同じ時期に来ている。

地元でも子供と老人で意見交流が出来たらベスト。

ダムは街の論理である。

NPO のあり方について

市民団体だけの集まりは空しい。イベント主催や話題提供者はやはり地元の人でないと。

下流の人間が行って話して（講演して）も意味がない。

多勢でのシンポジウムは意味がない？ 一人一人が課題を相乗的に進めていけば意味があるのではないか。

意味があるのは都会からどれくらい離れているところ？ 近くでもちょっと前までは結構田舎だったところが多いので、あまり遠くなくてもいいのでは。

本日の締め

近畿水の塾でも人間インタビューによる資料残しを進めるのはどうだろうか？

[記録担当：摂南大学 小川&富田]

【次回の予告】

第37回「澤井河川塾」

日時：1月21日(水) 19:00~22:00
・・・毎月、第3水曜日の開催です！！

場所：センター（いつもの6F会議室）

内容： 1. 淀川水系流域委員会「意見書」を読む（澤井氏）
2. （特活）近畿水の塾の16年度活動に期待すること（足立氏）
（3. 「私の水辺大発表会」における、
近畿水の塾版「水辺の評価方法」について）・・・次回以降に繰越

参加申込： 近畿水の塾 事務局（FAX:0725-53-5325

E-mail: mizunojuku@yahoo.co.jp）まで 1/20(火)締切

[担当：西河]

【マイリバー／川びと】

<マイリバー紹介>

マイリバー「芥川」

中山 香代子

「川遊び」は、幼い頃（小学校3.4年位まで）夏休みの最も楽しみな遊びのひとつでした。場所は高槻市の北「摂津峡」と呼ばれている芥川の上流です。昔も現在も摂津峡は観光地として（最近温泉がでました）そこそこ有名ですが、私が子供の頃は、「泳ぐ、水に入る」事が目的で要はプール代わりのようなイメージだったと記憶しています。今は家族連れと若者グループのバーベキュー用の河原になってしまいましたが。

夏、父の仕事が休みになると、朝5時頃に起こされて摂津峡にでかけます。持ち物は虫かごと網とカンカン、木綿のワンピースの下には水着を着ていきます。

かなり上流に行って、手頃な雑木林を見つけ、父を先頭に3人姉妹でカブト、クワガタ採りをします。まだ朝モヤがかかっている6時頃だと、かれらは、樹液を吸っています。

でかいヤツを発見したとき「胸がドキドキ」したことを今も感覚として覚えていることが不思議です。

虫取りを終えて陽が昇り、暑くなってきたら河原へ行って泳ぎます。流れがゆるやか



で腰くらいまでの深さのあるところを見つけて、上流から下流へ向かって何度も何度も潜ったり、泳いだりします。調子に乗って潜っていくと浅瀬に乗りあげ、あちこち擦りむいたりしました。父は、私たちが流されないよう遊んでいる少し下で、やっぱり「水遊び」していました。ちなみに父の幼い頃は安威川の下流で遊んだそうです。（今は足もつけられませんね）

私が5歳位の時、めずらしく家族5人で（母は身体が弱かった）川遊びに出かけました。かじか荘という渓流沿いにある旅館に泊まりました。今もかじか荘は有名ですが、かじかはあのカエルのカジカからきています。いつものように川遊びをしているとき、誤って私は小さな吊り橋から川へ落ちてしまいました。びっくりして暴れて水を飲んで下流へどんどん流されてしまいました。当時ころころに太っていたので「カップの川流れ」ならぬ「子ぶたの川流れ」になってしまいました。目の前があぶくでいっぱいになりだんだん眠くなっていくような感覚をなんとなく覚えています。

川岸にいた人たちが大騒ぎになり、河原を走って父が追いつき（だったそう）、気がついた時は父の大きな胸に抱きかかえられていました。水をたくさん飲んでぐったりした私はかじか荘の座敷に寝かされていました。夕方までうつらうつらしている時、遠くでカジカが

とても美しい幻想的な声で鳴いていました。父は私の頭をなでていました。

その大きくて遅しかった父は、私が10代の頃、急逝しました。今も美しい溪流とカジカの鳴き声は父の思いでと重なります。

今も、どんな川に出会っても、ついついそばまで行ってのぞき込んでみたくなります。そして手や足をつけたくなります。「変だ!」と言われるますが水の塾の皆さんならきっと気持ちが悪くはならないと思います。

次回は、堺市の西河さんです。お楽しみに。

【川の情報ボックス】

イベント情報

!!!!!! 石川流域フォーラム 2004 開催! : 1月17日(土) !!!!!!!

? 今年石川自然クラブ主催で「石川流域フォーラム 2004」を開催します。

? 石川のいまむかし、とことん石川を知ろう! というテーマで、昔の石川のライドショーや石川の今の自然のようすなど、メニューはいろいろ盛り沢山です。ぜひご参加を!

【日程】平成16年1月17日(土) 11:00~16:00

【場所】レインボーホール<富田林市民会館>中ホール

【内容】11:00~ パネル展示開始

13:00~ とことん石川を知ろう! - 石川自然クラブの活動から -

14:30~ 石川のいまむかしライドショー

15:30~ 石川のみらいに向けて - ひとつことメッセージ -

【申込】参加費は無料。

申込みは石川河川公園「自然ゾーン」ワークショップ事務局まで

里山環境教育オフィス(NPO法人 里山倶楽部内)

TEL&FAX 072-333-0309(寺川)

!!!!!! 自然再生法連続シンポジウム～自然再生推進法と自然再生を考える～ !!!!!!!

? ほぼ一年前の 2003 年 1 月、自然再生推進法が施行されました。

? 我々近畿水の塾では、山、川、はじめ身のまわりの自然環境が瀕死の状態であると考えています。再生とか復元とか言う言葉を見聞きすると、大いに期待してしまいます。

? そこで、この法の制定を機に、あらためて自然を再生するとは何か?そして、この法とどのように付き合えば自然を再生するという大目標の達成に近づけるのかを勉強したいと考え、連続シンポジウムを計画しました。

? 市民、行政、専門家と、そしてなによりも大切な自然という主役が、互いにどのように関係しあっていくことが求められているのか、3回の議論を通じて、多面的に考えていきたいと考えています。

? 大いに意見交流をしたいと思っています。よろしくご参加ください。

【日程】平成 16 年 2 月 22 日(日) 3 月 13 日(日) 4 月 24 日(土)

12:30~15:30 13:30~16:30 13:30~16:30

【場所】2 月 ?NPO プラザ:〒553-0006 大阪市福島区吉野 4 丁目 29-20

3 月,4 月 ?UFJ:〒550-8543 大阪市西区阿波座 1-6-1 信濃橋三和ビル

【内容】第 1 回「法に託された思いと可能性」話題提供:佐藤寿延さん(環境省)

恵小百合さん(江戸川大学)

第 2 回「自然環境権と自然再生推進法」話題提供:池上徹さん(弁護士)

佐藤寿延さん(環境省)

恵小百合さん(江戸川大学)

第 3 回「自然再生推進法をどう使おう?」参加者全員によるディスカッション」

【申込】参加費:第 1 回、第 2 回はそれぞれ 2000 円 第 3 回は 1000 円

申込みは NPO 法人 近畿水の塾事務局まで

【事務局より】

2004年1月11日午後1時13分、NPO法人全国水環境交流会代表理事 森 清和氏がご逝去されました。

心からご冥福をお祈りします。

NPO法人近畿水の塾 事務局

住所 〒594-1151

大阪府和泉市唐国町 1-19-95-201 佐藤方

& Fax 0725-53-5325

E-mail mizunojuku@yahoo.co.jp

HomePage <http://www.geocities.jp/mizunojuku/index.html>
